

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和7年度 丹波篠山市脊椎動物化石保護・活用委員会

2 開催日時

令和8年3月12日（木）午後2時00分から3時00分まで

3 開催場所

丹波篠山市役所本庁3階301会議室

4 会議に出席した者の氏名

- (1) 委 員 樋口清一、佐藤裕司、池田忠広、押部匡子、安原郁代、清水康之、長澤瑞希、
宇瀧広子
- (3) オブザーバー 企画総務部次長兼創造都市課 課長 藤田尚位
学校教育部次長兼教育研究所 所長 小嶋拓也
- (2) 執行機関 丹波篠山市教育委員会社会教育部社会教育・文化財課 課長 辻川貴志
丹波篠山市教育委員会社会教育部社会教育・文化財課
文化財係 係長 植木友
文化財係 化石保護技術員 奥岸明彦、
文化財係 主査 山本有子（記録）

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

全て公開

7 非公開の理由

該当なし

8 会議資料の名称

令和7年度 丹波篠山市脊椎動物化石保護・活用委員会資料

9 審議の概要

(1) 開会

(2) あいさつ

樋口委員長あいさつ

(3) 議事

1) 報告事項【事務局報告】

令和7年度事業報告について

事務局より説明

A 委員：丹波篠山市の事業自体は適切にされていると思うが、につぼん恐竜協議会の要望活動について私たち何も聞いていなくて初めて見るが、国に対する予算要求はどこに予算をつけてくれと話をするのか。

事務局：具体的に「どこに予算をつけてくれ」という話はまだ聞いていない。おそらく国に対して各市町が活用できる補助制度の創設をお願いしたいということだと思う。

A 委員：そういった補助制度自体は我々化石の研究で、科研費か笹川科学研究助成か、そのぐらいである。もしそういう制度が創出されて、僕らがアプライして調査研究でお金を使えるならばいいことだと思う。この要望中(1)の「調査」は「調査・研究」としていただきたい。(2)の中で「研究」が最後に書かれているが、何をするにしても調査が終わった後、研究があつて資料整理がある。研究がないと展示に活用されない。だから、ちゃんとそういうことに使える体制の要望を作成して、まず調査研究に係る経費や発掘調査等の整備、資料整備に対する補助事業、資料整備にも助成がないと話が進まない。まず一番大事なのが発掘調査等研究と資料整備。その次が、その成果を利用した展示や保存や教育である。(3)のまちづくりの推進協議の中で博士の学位を有する人材は不要だと思う。博士号をもっている人は研究者を目指している人なので、まちづくりを推進されるのであれば、「博士」というよりも「適切な知識を有する人材」とした方が無難だと思う。そうすれば修士だろうが学位だろうが学士だろうがこの人がいいという人を取れると思う。博士って縛ってしまうと、博士号まで行く人ってほとんどが研究者なので、あまりまちづくりには興味がない。この博士というのは結構ネックになると思うので、「適切な知識を有する人」でいいのではないか。

あともう1点。キャラパキの取り組みは進めていただいている。丹波篠山市のササヤマグノームス、丹波市の丹波竜などを活用した取り組みは進めていただいているが、この件も私は初めて知った。骨格の画像を提供するとなると、いろいろ我々との協議が必要であるので、その辺の情報共有をしていただければ助かる。進めていくことは全く問題ない。むしろ進めていただければいいと思う。

事務局：キャラパキだが、私もそれを危惧していたが、キャラパキは骨格をデフォルメしたキャラクターである。雰囲気である。ポケモンのようにキャラクター化したものなので、角竜であればこんな感じですよっていうのがわかれば問題ないという画像である。骨格グッズもいわゆる一般的にあるものを作る。

A 委員：著作権的には実は骨格グッズの二次製作物、真似して作るのは著作権違反になる。バンダイさんが責任を持って誰かデザインをお願いしてやるのは全然問題ない。

事務局：ササヤマグノームスでキャラパキを作ることは、ひとはくの田中先生にはお伝えしている。

B 委員：キャラパキっていうのは初めて今聞いたが、これはチョコなのか。

事務局：食玩みたいなものである。ホワイトチョコレートか何かでこうかたどった骨っぽいものをパキパキ割って取り出す。

- B 委員：A委員の言われた要望の質問だが、これは、補助金を活用してにっぽん恐竜協議会事務局が人を雇うということか。そういう意味ではあまり他の市町村はメリットのない話かと思った。
- 事務局：今、会長をされている御船町が各市町から上がってきたお困りごとを、取りまとめられて要望書を作成された。協議会というよりはそれぞれ市町への支援ということだと理解している。
- B 委員：今、学校で石張り調査をされている石は、川代トンネルの石を使われているのか。
- 事務局：今年度は川代トンネルの石を使用した。
- B 委員：川代トンネルの石はまだ結構在庫があるのか。
- 事務局：たくさんある。ただ、宮田の石とは違って骨が出るというのはすごく稀というか、少ない。貝が圧倒的に見つかる。貝ではちょっと物足りないかもしれないが、参加者がそれなりに化石を見つけることができる。10人参加して1人が見つかるというのではなく、10人参加したら5人は化石を見つけることができる。
- B 委員：その貝は何者であるか分かっているのか。
- 事務局：分かっていない。研究が進んでいない。
- B 委員：福井県の手取層群で貝の化石が出ているが、あそこは研究が進んでいる。せっかくなので研究を進めてきちんと名前がつけばいいと思う。

2) 協議事項

令和8年度事業計画について
事務局より説明

- C 委員：事業計画の中の、1番、情報発信事業で令和9年度に太古の生きもの館開館10周年記念事業を検討すると書かれていますけども、並木道公園もたまたま令和9年度に20周年を迎えることになっている。同じところにある施設なので、20周年と10周年と一緒にしてもいいかなと思う。
- 事務局：並木道公園は10月開園なのでイベントは10月になるか。
- C 委員：10月は一番大きいイベントのなみきみちまつりがあるので、20周年記念イベントの開催はどうしようかと考えている。
- D 委員：先ほど寄附の50万円は露頭の掘削工事費用と言われたが、50万円という金額は露頭の掘削費用として多いのか、少ないのか。
- 事務局：これだけの量を削りますというよりは、業者さんにある程度そういう機械を使って人員を一人配置してもらって機械を使ってというのをワンセットとして、それを1日どのくらいの金額で、何回やってもらえるかっていう話になる。作業期間は1週間程度だと思う。掘削する範囲は大きくあればあるほどいい。
- D 委員：子どもたち全体を見たときに、いろんなイベントがあっても親に興味がなかったり、親に連れて行ってもらえない子どもの方が断然多くて、なかなかそこに参加できない。学校では本当に1年生2年生の子からでも結構恐竜の本を読んだり、恐竜ごっことかして、すごく興味は持っている。その興味を学校の6年生の理科の時間に来ていただくことで、丹波篠山市の小学6年生全員がこの市にある地域素材を通して、活用し

て勉強ができることはすごく嬉しいと思っている。この間、それこそ3年生の子と一緒に並木道公園に行かせていただいて、太古の生きもの館に行った。それほど広くないが、違う小学校の6年生の児童が発掘した化石の標本が展示してあり、すごく群がっていた。その後クリーニング作業したりするようなどころもすごく覗いていた。そういう興味関心はすごくあるが、その次の「つなぐ」っていうところが、教科書でいくと点なのだが、それを地域資源とつなぐと線になる。そうすると興味も広がり、読む本も変わってきたり、見るテレビも変わったりする。この学校教育との連携はこれからもますます強くしていきたいと思う。

- F 委員：川代トンネルの地層よりも宮田の地層の方が貴重な化石が出る可能性が高いか。
事務局：トンネルはトンネルでまた素晴らしいものが出るので、どちらもないがしろにできない。比べることはできない。
- A 委員：確率論から言うと宮田の方が出る。出るものの性質が違ってトンネルからもいいものも出ている。
- B 委員：ササヤマグノームスは宮田で発掘されている。
- A 委員：サイズとしてはあのサイズくらいはマックスである。貴重な資料は多分、宮田の方が出やすいと思う。ただ小さいのであまり受けが良くないかもしれない。化石は出ると思う。
- F 委員：そういう貴重なところの岩石を小学生の子どもが石割するのは無理があるのか。
事務局：石割するのは川代トンネルの石の方がいいと思う。
- A 委員：奥岸さんが見ている範囲内で毎回石を崩して割ってということができればいいのかと思う。どうせ化石が出ると壊すので。その時にきちんとそれをセーブできる専門家がいればいいと思うが。
- 事務局：大変である。言った通りに完全に作業をしてくれるわけではないので。一時、宮田の発掘調査に子どもたちには体験ではなく、一緒に調査員になってもらってということも考えたが、標本の扱いというのはどうしても教えた通りにはできない。ある程度のレベルより上を求められる。こちらの寛容性も必要になる。こちらが重要だと思っているものを壊してしまっても「いいよ」って言えるか、その辺はなかなか難しい。高校生ぐらいになるときちんとしてくれる。小学生だとちょっと現地では難しいかな、と。ただ一緒にはやりたい。何かいい方法がないかなと思っている。
- D 委員：すごく小さいものでも化石が出てきたらすごく子どもたち喜んでいて。会長が冒頭に言われたみたいに、「その化石が実際にはこんな恐竜だった。」っていうものがあると、余計に興味も高まるかなと思った。昔、丹波竜のレプリカを学校に1体ずついただいたときにすごく子どもたちが見ていたが丁寧に扱うことができない。でもそれが小さな子にとったら、親しみを持って恐竜に触れるいい時間ではないかと思う。市役所にも恐竜のコーナーのようなものが何かあってもいいのではないかと思う。
- A 委員：フィールドミュージアムで今、ササヤマグノームスのフィギュアを作っている最中で、次年度に販売できると思う。丹波竜と丹波篠山市の恐竜が2体、協議会の予算次第だが、毎年依頼していただければ作ること自体は、元を作るのが200万円ぐらい、生産合わせて300万円ぐらいの事業だったかと思う。
- G 委員：最初のところで200万円ほどかかる。今年の7月の販売に向けて現在、先生方より監修をいただきながら進めている。

- F 委員：それはササヤマグノームスを作成しているのか。
- G 委員：ササヤマグノームスである。
- F 委員：出てくるものをイメージしながら石割の方が石割にも力が入ると思う。
- D 委員：わくわく感がある。
- F 委員：実際に出てくるものは欠片なので分かりにくい。
- B 委員：事業計画について、太古の生きもの館開館 10 周年。この周年を聞いて思ったが、丹波竜が発見されたのが 2006 年だったか。2006 年であれば今年 20 周年になる。20 周年ということは丹波市は何かされるのか。
- A 委員：丹波市は来年に展示会を考えられている。
- G 委員：イベントを検討されている。
- B 委員：恐竜も大事だが、他にも素材はある。あまり知られてないけど、丹波層群の中に P-T 境界といって、生物が大量絶滅したという地球史の中で 7 大イベントの一つという大事件を表すというかその証拠になっている一つである地層がある。高校生レベルになると恐竜だけではなく、そちらの方も知ってほしいと思う。あとは枕状溶岩など結構見どころがあると思う。そういうものも含めて、小学校 6 年生を対象とした地学を勉強する機会があるときに、恐竜だけではなくて、そういうことも学習する機会を是非作れたらいいなと思っている。

(4) 閉会

以上